



■ たかの・ゆきお

1937年、東京都豊島区生れ。豊島区議会議員(1983～89年)、東京都議会議員(1989～99年)を経て、1999年4月に豊島区長に就任し、現在6期目。国際アート・カルチャー都市構想を掲げ、文化事業を推進。公益財団法人としま未来文化財団理事長も務める。



■ しばはし・まさなお

1979年、京都市生まれ。大学卒業後、UFJ銀行、衆議院議員(2009～12年)を経て、2018年に38歳で第21代岐阜市長に就任。学生時代は歴史学者を志すほど大の歴史好きで、市長就任後は岐阜城跡山上部の石垣発掘調査など地域資源を活用したまちづくりに取り組んでいる。岐阜市芸術文化協会名誉会長など文化芸術団体の職も務める。

市川 岐阜市と豊島区、一見つながりがなさそうなのだが、この2つの都市には、じつは熊谷守一ゆかりの地という共通点があります。明治22年(1889)、岐阜に市制がしかれ、熊谷先生のお父様の孫六郎さんが初代岐阜市長を務めています。熊谷自身も3歳から17歳までの多感な年ごろを岐阜市で過ごしました。対して豊島区は、熊谷先生が52歳の時に終の棲家を構え、97歳で亡くなるまでを過ごした地です。本日は、幼少期を過ごした岐阜市の柴橋市長と、後半生を過ごした豊島区の高野区長にお話を伺います。熊谷守一の話はもちろんですけれども、読者は画家が暮らし、た都市ってどんなところだろう、現在どんなふうに変わっているのだろうという点にも興味があると思いますので、ぜひまちについても聞かせいただければと思います。

高野 熊谷守一さんが最初に豊島区に引越してこられたのは昭和6年(1931)。翌年、区内の千早(ちばや)という場所に移って新居を構え、その後の45年間を過ごされました。昭和7年は豊島区が誕生した年です。昭和初期、要町、長崎、千早の1帯はアトリエ村と呼ばれ、最盛期は芸術家たちが数百人も暮らしていました。熊谷さんは若い画家たちの憧れの大作家で、アトリエ村のよき理解者として慕われていたそうです。小熊秀雄さん等々が「池袋モンパ



熊谷が父・孫六郎を描いた《父の像》。実業家であり、政治家であった孫六郎は1889～93年、初代岐阜市長を務めている。1910～15年 油彩、カンヴァス 44.0×37.0cm 岐阜市蔵
*注「熊谷守一のアトリエにあったもの展」には出品されません。

ルナス」と名付けたあのエリアに、豊島区の文化の出発点があったと私は思っているくらいです。

時代が下って現在の豊島区は、日本一人口密度が高い都市。そして山もない、大きな川もない、畑も空き地もないし、お金もない(笑)。智恵と工夫しかない豊島区で私は生まれ育ち、まだ区外で暮らしたことがあります。区長になったのは平成11年(1999)。当時は財政破綻寸前という状況で、再建に10年以上を費やし、ようやくまちづくりが軌道に乗って若い人にも人気のあるまちになったと思ったら、平成26年(2014)、23区で唯一「消滅可

能性都市」に挙げられてしまいました。30年後に若い女性が半減し、人口減少により区が消滅する、と。あのショックはいまでも忘れません。そこで大きな政策転換を実施し、現在、まちの様子はガラッと変わったと思っています。

柴橋 市川さんから説明があったとおり、岐阜市の初代市長は熊谷守一画伯のお父様である孫六郎さん。そして画伯は岐阜で育ちました。都市としての成り立ちには中世に遡ります。大河ドラマ「麒麟がくる」が放送中ですが、まさに斎藤道三公、織田信長公というふたりの戦国時代の英傑が岐阜のまちの礎を築きました。その後、関ヶ原の



豊島区にあった自邸の庭にて、木立から顔をのぞかせる熊谷守一。晩年はほとんど自宅の敷地から出ることがなかった熊谷にとって、庭は創作の源だった。1974年 撮影・藤森武
「熊谷守一のアトリエにあったもの展」出品作

芸術新潮
特別企画

熊谷守一が結んだ親戚づきあい

都市間連携のほいまり

岐阜県で生まれ育った熊谷守一は、のちに東京の豊島区に終の棲家を構えた。岐阜市と豊島区、画家ゆかりの両都市には、文化を基軸とした街づくりを目指すという共通点も。そこで、画家の生誕140周年を機に両首長がご対面。

高野之夫

豊島区長

柴橋正直

岐阜市長

Morikazu Kumagai

進行 市川瑛子(「メディアコスモス新春美術館 没後40年 熊谷守一展」実行委員)



熊谷も登った金華山は岐阜市の中央に位置する。ここに築かれた岐阜城は戦国時代、斎藤道三、織田信長の居城であった。手前は長良川で、鵜飼が行われることで広く知られる。



「みんなの森 ぎふメディアコスモス」は写真のグローブが特徴的な市立中央図書館などからなる複合文化施設で、2015年7月にオープン。設計は建築家の伊東豊雄氏が担った。



映画館や多目的ホール、としま区民センターなどを備えた大規模複合施設「Hareza池袋」は今年7月に全体開業。岡崎乾二郎や三沢厚彦など現代作家の作品が施設内の随所を飾っている。



高野区長の都市構想には公園整備も含まれる。こちらは2016年4月にリニューアル・オープンした南池袋公園で、以降さらに池袋駅周辺の3つの公園が生まれ変わっている。

柴橋 最後は簡単なスケッチくらいしかできなかつたものの、亡くなる直前まで描いておりました。絵を描く、表現するということは、すごいエネルギーを人間に与えるんだな、と祖母を見ながら実感しました。

市川 熊谷先生も油絵は若い頃から描いていらしたんですけれども、書や日本画に本格的に取り組みはじめたのは60歳ちかくになってからなのです。絶筆もじつは書だったんです。高野区長も絵をお描きになるそうですね。

高野 いやいや、クレヨンで描いた落書きのようなものです。ただ、こういう仕事をしているとホッとすると、下手でもみんなに見てもらいたいという気持ちになるから不思議です。

市川 とこで、残されている熊谷先生の言葉のなかには、金華山を登山したことや、長良川の忠節橋から舟で伊勢旅行に出かけたことなど、岐阜の地名が多く見られます。これらの地はいま、どのような様子でしょうか？

柴橋 最近まで、当然ながら画伯が暮らしていた頃も、天守閣がある金華山の頂上が岐阜城だと考えられていたのですが、じつは金華山が丸ごと岐阜城だったことが明らかになりつつあります。岐阜城は信長公の思想を反映するようなとてもスケールの大きいお城だったのではないかと。現在、積極

的に調査を進めているところです。

長良川の鵜飼は1300年以上の歴史があり、信長公が鵜匠と名づけたと言われているくらいで時の権力者の庇護のもとに繁栄してきたのですが、近年、特に一昨年の豪雨以来、川の流れが変わるなどの要因から鵜飼ができないう日が増えていきます。自然との闘いのなかで持続可能なものにしていくことが大きな課題になってきているのです。

画伯が岐阜にいらした頃には考えられなかった自然環境の変化ですね。一方で、市民のみなさんにもっと長良川に親しんでいただける環境づくりを目指していきたいとも考えています。

かつて長良川は子供たちの楽しい遊び場でした。画伯が暮らしていた頃の、みんなが川を愛して集まってきた姿を取り戻したいと、ミズベリング協議会を立ち上げました。

市川 豊島区には、先ほどお話があったアトリエ村や、昭和を代表する漫画家の暮らした「トキワ荘」、豊島区立熊谷守一美術館など、芸術の歴史があります。そんな豊島区の「アートのいま」をお教えいただけますか？

高野 アトリエ村があつて文化で盛り上がっていた時代があったわけですが、空襲で区の7割が焼け野原になり、戦後は池袋駅周辺に闇市が立つようになりました。そういった、生きるためのものすごいエネルギーが池袋のまちを

Morikazu Kumagai

戦いで岐阜城は落城し、江戸時代はいまの岐阜市の中心部が尾張藩となったため、中世の街並みがそのまま残っている珍しいタイプの地方都市ではないかなと思っています。

市川 そんな熊谷先生ゆかりの両都市ですが、おふたりは作品についてはどんな印象をお持ちでしょうか？

高野 政治の世界に入る以前、私は古本屋を経営していたこともあり、熊谷さんの作品も美術書をとおして知りました。単純化された描写で親しみを感じさせるけれど、深みがある、誰もが引き込まれるような絵画だと思います。その熊谷さんがこの豊島区で暮らしていることを誇らしく思いました。私にとって熊谷さんは、豊島区における文化の中心的存在です。二女の榎さんが、熊谷さんが暮らした地に美術館「下右」を建てられ、二十数年間しっかり守ってくださったのち、平成19年（2007）、豊島区に守一作品を寄贈いただき、同年区立美術館になりました。



した。残念ながら豊島区にはそれまで区立美術館がありませんでしたから、「豊島区は文化がない」と大きなプレゼントをくださった気がして、とても感動した次第です。

柴橋 岐阜市では5つ作品を所蔵しております。熊谷画伯が孫六郎さんを描いた《父の像》（199頁下）、林間に朝の光がさす風景を描いた《朝日》、そして市長応接室にいつも飾っている「岐阜」と揮毫された書。また岐阜市歴史博物館には《海》、その分館である加藤栄三・東一記念美術館には《鵜》があります。なんといっても岐阜は長良川の鵜飼がありますし、加藤栄三先生、東一先生も熊谷画伯と同じく岐阜市ゆかりの画家です。私自身が初めて画伯の絵に出会ったのは、衆議院議員に初当選した平成21年（2009）の夏でした。《桜》という作品です。じつは96歳で亡くなった私の祖母が、60の手習いで油絵を描いておりました。モチーフはいつも浜木綿で、あの白い花の純真さを自身に重ね合わせ、純真な自分でありたいという気持ちで描き続けている、とよく話していたことを覚えています。《桜》を拝見した時、熊谷画伯は野心などとは無縁のように感じました。絵画といえば純真、という私の原体験にぴたつとはまったことがすごく印象に残っています。

市川 96歳とはご長命ですね。



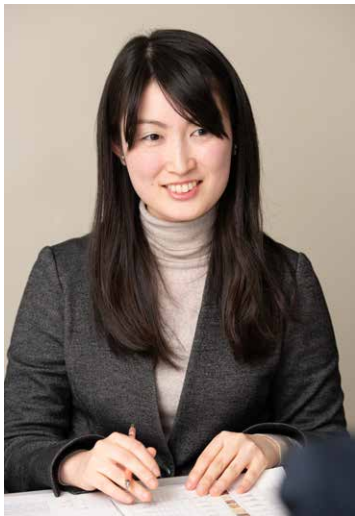
上／おしゃれをしてポーズをとる7歳頃の熊谷。1887年頃。この前年の4月、岐阜県尋常小学校に入学している。岐阜県歴史資料館蔵
*注「熊谷守一のアトリエにあったもの展」には出品されません。
下／熊谷が97歳で亡くなるまで暮らした豊島区の住居跡には「豊島区立熊谷守一美術館」が建っている。1985年に熊谷の二女・榎さんが私設美術館として設立したのち、2007年に作品を寄贈。同年区立となる。榎さんは現在も館長を務めている。
公式サイト kumagai-morikazu.jp
左／庭の植物や虫をモチーフにすることが多かった熊谷晩年の作品で、「豊島区立熊谷守一美術館」の外壁上部を飾っている絵の原画でもある。《熊蜂》1972年 油彩、板 22.7×15.8cm
*注「熊谷守一のアトリエにあったもの展」には出品されません。



作り上げていく一方、その間、文化への関心は低くなっていきました。文化は夢、希望を与えるものだと思っておりませんが、財政的に厳しいと、文化振興は行政のなかでも後回しになってしまします。私が区長になった時は、3000人いた職員のうち、文化担当はたった2人、しかも1人は兼務でした。それが現在は、2000人の職員のうち100人が文化担当です。ようやく財政が安定してきて、国際アート・カルチャー都市を目指す、という将来像に向かって進んでいるところで、たとえば旧庁舎の跡地に「ハレザ池袋」(121頁上右)が誕生したり、駅周辺の公園を活用して野外劇場を作ったり。まちを回遊しながらアートの

■ いちかわ・えいこ

キュレーター、1919年創業の「柳ヶ瀬画廊」の取締役。2019年、熊谷守一の研究機関「長良文庫」開設。2017年に開催された「メディアコスモス新春美術館 没後40年 熊谷守一展」の実行委員を務めた。



ポットを楽しむ「池袋モンパルナス回遊美術館」は今年で15回目になります。そして、さまざまなプロジェクトのひとつに「トキワ荘」の再現もあります(38頁参照)。漫画はいまや世界共通の大切な文化になっていきます。その文化を伝えていくだけではなく、まちの特色を出していくという意味でも、「トキワ荘」再現は非常に意義があることだと思っています。

市川 岐阜市でも熊谷先生にゆかりの深いエリアで新展開が見られますね。

柴橋 伊東豊雄先生の設計による「みんなの森ぎふメディアコスモス」(121頁下左)が5年前にオープンしました。図書館と市民活動交流センターが入る施設です。来年、このすぐそばに新たな岐阜市庁舎が完成します。知、絆、文化の拠点となるぎふメディアコスモスを有効活用し、古くからの文化芸術集積エリアである岐阜公園周辺、商店街がある柳ヶ瀬地区、再開発が進むJR岐阜駅一帯、さらに市内各地域をつないでいくというチャレンジをい

ままさにやろうと企画中です。ぎふメディアコスモスがある司町の隣は熊谷画伯がお住まいだった佐久間町。この町名は、地元の名士だった佐々木氏の「サ」、熊谷孫六郎先生の「クマ」をとって命名されたものです。

また、柳ヶ瀬はいまりノベーションによるまちづくりに取り組んでおりま

すが、豊島区で活動している青木純さんにたいへんお力添えをいただいております。豊島区が取り組んでこられたことが、青木さんを通じて岐阜の若者たちに伝わり、彼らがまちを元気にしている。昨年度からヤナガセパークラインというイベントを開催するなどして盛り上がっています。行政においても、豊島区の公園を生かしたまちづくりを参考にさせていただいております。柳ヶ瀬エリアに隣接して金公園があるのですが、人びとが集う岐阜市の「セントラルパーク」として2022年度のリニューアルを目指し、再整備を進めています。

高野 青木純さんはとてもエネルギーシユな活動をされていて、南池袋公園「121頁下右」のリニューアルにもご尽力いただきました。かつて、この公園は治安が悪く人が寄り付かなかったのですが、今までは区民の憩いの場です。さらに先月、造幣局跡地に池袋最大級となる公園「イケ・サンパーク」がオープンし、隣には「としまキッズパーク」も。公園を中心にまちをつくり、文化を取り入れながらまちを変えていきたい。文化は未来をつくり、平和を築いていきます。その心の豊かさをはじめ、賑わいをつくるのもやっぱり文化ですね。文化のあるところには必ず、賑わいが生まれます。

豊島区ではまもなく熊谷守一さんの

展覧会が開かれます。アトリエで使っていたものを紹介する内容です。熊谷さんを架け橋に、お互いの良いところを勉強しながらまちを発展させていきたいですね。柴橋さんが仰ったように、若者同士の交流も活発化させたい。

熊谷守一誕生140年記念
熊谷守一のアトリエにあったもの展

10月27日～11月1日(会期中無休)
自由学園明日館 別棟 講堂

藤森武による熊谷守一の写真や、熊谷の遺品などが出品され、画家の創作の背景に触れられる。

住所 ■東京都豊島区西池袋2-31-3
電話 ■03-3971-7535

時間 ■10:00～17:00(講堂のみ)
料金 ■無料(建物見学は別途有料)
アクセス ■JR池袋駅メトロポリタン口より徒歩5分、JR目白駅より徒歩7分
自由学園明日館HP ■jiyu.jp



フランク・ロイド・ライトの設計によるこの自由学園明日館は1921年竣工で、現在は重要文化財に指定されている。展覧会は明日館の向かい側にある講堂にて開催。

展覧会案内